

選外佳作の四

蝶々のくびかざり

高 桑 博 子

雨がやんで、白い雲の間からは青い〜お空が見え出しました。

お日様もニコ〜照り始めました。

ごころから来たのでせう、黄色い可愛い蝶々の子供が一匹、お空をひら〜面白さうに飛んで参りました。

この春生れたばかりの小さい黄色い蝶々の子供はごこへ行つてもめづらしいものばかりでした。野原には、むらさきすみれがやさしくお首をふつて居りましたし、つくしん坊の兵隊さんは丁度氣をつけをして居りました。

菜の花畑には、きいろい菜の花がたくさん〜ゆらり〜しづかにゆれて居りました。



蝶々はさてもびつくりしてしまいました。

今度は上手に取りませう。そして赤くく光つたつゆの玉にそつちお手々をのばしました。玉は今度もひそりずにコロコロとツミころががつて来てお胸にバチンとぶつかつてきこかへ行つてしまいました。

「おやくやく」蝶々は又びつくりして、お目々を丸くしました。

「蝶々さーん、きいろい蝶々の子供さーん」

その時、さここが高いく所から誰か呼んだやうな気がしました。蝶々の子供はすぐに、

「はあい、私を呼んだのはあなた？ さここにいらつしやるの？」大きなお聲で言いました。

「私はね、お日様なんですよー」

「あ、お日様」

蝶々の子供はうれしそうにお空を見上げました。お日様は蝶々も菜の花も葉つばのつゆもみんな明るく照らしながら、ニコニコ笑つていらつしやいました。

「なあに、お日様」

蝶々は又大きなお聲で言いました。

「蝶々さん、きれいな首かざり私にも見せてちやうだいな。」

「いゝえ、お日様私まだ首かざり出来ないんですよ。」

蝶々の子供は、少し悲しさうなお顔をしました。するさお日様は前よりもつき〜ニコニコ照らしながら。

「まあ蝶々さん、あなたのお胸に光つてるきれいなおかざりが見えませんか。」

「え〜？」

蝶々の子供は大いそぎでお胸を見ます。まあ本當に、蝶々のやはらかなお胸には、いつのまにか、小さな〜つゆの玉が、たくさん〜ついで、キラ〜〜〜それは〜きれいに光つて居りました。

「なんてきれいなんでせう、誰がこんなにきれいにして下さつたのかしら。」

蝶々の子供は不思議でたまりません

「ね、お日様、あなたは御存じ？」

「え〜知つて居ますとも、つゆの玉ですよ、あなたのお手々も、お體も小さくつて、重いつゆの玉が持てないから、コロ〜ツミころがつて来て、パチーンとお胸にあつかつて、こんなた小ざ〜〜なつてお胸につらてあげたのですよ。」

「まあさう、つゆの玉さん、さうもありがたう」蝶々の子供はうれしさうにおじぎをして、又

ひら〜〜〜〜び始めました。

蝶々がうすいおはねをひら〜動かす度に、お胸についた小さいつゆの玉は、キラ〜〜それ  
れは〜きれいに光りました。

(をばり)

## 選外佳作の五

### かたつむりさん

宮 田 國 子

かたつむりさんの住んでゐる木の近所に、蝶々さんも、玉蟲さんも、てんたう蟲も住んで居  
ました。かたつむりさんは背中に何時もお家を背負つて居ますので、歩くのが大變のろく、又  
面倒でした。それで大抵の時はお家の中で一人で遊んで居ました。

蝶々さんや、玉蟲さんや、てんたう蟲さんには、みんなきれいなお羽がありましたので、三  
人はお天氣のいゝ日は何時もあちらこちらを飛びまはつて面白く遊んで居ました。そして三人  
は時々かたつむりさんのお家へ来ては、いろ〜な面白いお話をしてあげました。二三日前も